

	広島大学 保健系分野（歯学）
学部・研究科名	歯学部歯学科（第1年次：53名） 口腔健康科学科（第1年次：40名） 医歯薬保健学研究科医歯薬学専攻歯学専門プログラム（D：27名） 口腔健康科学専攻（M：12名 D：4名）
沿革・設置目的	昭和40年、歯学に関する教育・研究を行うことを目的とし、広島大学歯学部が設置された。 昭和24年（1949年） 広島大学設置 昭和40年（1965年） 広島大学歯学部設置 昭和47年（1972年） 広島大学大学院歯学研究科設置 （平成14年（2002年）大学院医歯薬学総合研究科、平成24年（2012年）大学院医歯薬保健学研究院及び大学院医歯薬保健学研究科に改組） 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行
強みや特色などの役割	○ 広島大学の理念等に基づき、幅広い教養と豊かな人間性、協調性と社会規範、国際化・情報化に対応できる能力、高度の医療技術と生命科学の総合的な知識・技能を有し、歯学・口腔保健学のリーダーとして社会・地域・国際貢献できる歯科医療人、及びグローバルコンピテンシーを備え、指導的立場に立って国際的にも活躍できる人材の養成を積極的に推進する。 ○ 最先端の生命科学に立脚した、機能再建を目指した組織再生に関する研究や、口腔疾患と全身疾患との関わり（口腔が全身の健康に及ぼす影響等）に関する研究、情報医歯工連携に関する研究を始めとする各領域における研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究や国際共同研究を推進し、新たな医療技術の開発・実用化や医療水準の向上、歯科医療関連産業の競争力強化への貢献を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。 ○ 細胞治療（口腔癌の治療、歯周組織再生、顎骨再生）、工学技術を応用したCAD/CAMによる技工物や手術支援3D模型の作製、発音・摂食・嚥下機能訓練、HIV歯科治療、医科歯科連携（放射線災害克服を含む再生医療等）に関する診療等の取組を通じて、広島県等における地域歯科医療の中核的役割を担う。

	<p>○ 次世代の歯学研究を切り開き、歯科医療を全身との関わりの中で行う歯科医師、患者の口腔状態を適切に管理することで全身の健康維持を図る歯科衛生士、先進的な歯科医用工学技術を身につけた歯科技工士を育成するプログラム（バイオデンタル教育）を確立し、その成果を国内外にモデルとして発信・普及することを目指す。</p>
--	---